

衆議院議員 玉城デニー FAXニュース (4/13号)



◆ 米国・ワシントンDCで議員外交を積極的に展開

玉城デニーは、日米間の安全保障の環境を取り巻く問題などを中心とした意見交換等を目的に 2 月 7 日から 9 日にかけて訪米し、政府・議会・シンクタンクなどさまざまな立場の関係者と面談や会議を重ねた。訪米には、普天間基地の地元移設が挙げられている辺野古海域を有する名護市の稲嶺市長も同行された。稲嶺市長は独自調査のもとで作成した英訳付きのリーフレットを持参され、沖縄におけるこれまでの政治的状況の変化、辺野古海域のサンゴや海草藻場などの自然環境について説明した。米国でも貴重種に指定されているジュゴンが回遊する辺野古海域の、他に類を見ないような素晴らしい環境に関する市長の説明に対し、直接現地を訪れたことがない米国議会の議員や政策秘書からは幾度も質問が繰り返された。自国の新しい基地を建設する計画がある辺野古海域が良好な自然環境にあることに対して、環境保全や貴重種保護といった法的な見地からも強い関心を寄せていたことを興味深く感じた。

外務省を通じての正式な面談要請に加え、ワシントンDCで米国議会に人脈のある日本人弁護士などの協力もあって、3 日間の滞在で時間に限りのあるなか密度の濃い 23 回のミーティングを行うことができた。面談の中で、日本国内に駐留する海兵隊の移転計画やそれに伴う移転経費に関する米国での協議状況、沖縄における日米同盟関係に対しての県民世論など、論点は広範に及んだ。双方に関心の深い案件については特に念入りな質問がやり取りされるなど、さまざまな疑問を整理するうえでもお互いに貴重な時間を共有できたのではないだろうか。米国ではとかく大統領の動きだけが話題になり注目されがちだが、国民によって選ばれている議員もまた国民からの信頼が高い。日米安全保障の問題という、国として重い課題に関する真剣な議論の合間に「仕事ができる議員は忙しい」というジョークがでるような雰囲気はとても大事だと思う。国としての大きな課題の解決につなげていくためにも、親和的で建設的な議員外交をもっと積極的に進めていくべきだと痛感したワシントンDCでの 3 日間だった。立場や視点が違う方々から幅広い内容にわたっての情報が収集でき、また沖縄の現状をしっかりと伝えられたことなど貴重な成果が得られたと実感を強くした訪米活動であった。



【ブルッキングス研究所のマイケル・オハンロン氏との意見交換】



【ジム・ウェップ上院議員との意見交換】

【プレス民主 2012 年 4 月 6 日号より抜粋】